

青嶺

Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

義務教育を終え

未来へと羽ばたけ！

いよいよ明日、卒業式を迎え三年生はこの学び舎を巣立っていきます。

長い戦いを終え、今の心境はきつと清々しいことでしょう。終わったことはどうしようもありませんが、これから先の未来へは今日から始まる新しい一日をどう過ごすかで大きく変わります。

自分の責任で選んだそれぞれ場所で、これから新しい人生が待っています。式辞でメッセージを伝えますが、一足先に通信で。

その背中の翼に精一杯風を受けて、未来へと高く、大きく羽ばたけ！

「考え方」の訓練

先日の佐賀新聞に掲載されていた俳優の松尾貴史さんの記事です。非常に納得できる内容でしたので紹介します。

中学時代の自分に言えるなら「勉強しろ」と言いますね。何で勉強するのかと疑問だったけど、無関係だと思った知識を二つ結びと線になる。三つあると面に、四つあると立体になります。いつ役立つかわからず知識が後で結びついて使えた経験はたくさんあります。数学の因数分解なんかも、実は考え方の訓練です。何かが起きたときにどう対処するかという。

子どもの時から「なぜだろう」と疑問を持ち、疑うことはすごく大事です。「疑う」のは卑しい行為で「信じる」のが美しいと思う人が多いようですが、この二つは逆ではない。疑うのは過程で、信じるのは結論。「疑わない」「信じない」が反対の言葉です。何か情報が入った時に、「なぜ?」「本当か?」と疑わない

とだめ。信じた方が楽だから、世の中は詐欺(さぎ)でだまされてしまう人が多い。僕は「違和感」という言葉を大切にしています。ぜひ、中学生のうちから違和感を持ちつつ、好奇心も抱き続けて何にでも挑戦し、体験や学習の幅を広げてほしいです。

校則の見直し

先月末、生徒会長、副会長の二人が校長室を訪れ、校則(学校の決まり)の見直しに関して要望書を持ってきました。

【要望の趣旨】
1・2年生教室前廊下の開通について(休み時間や登下校時、掃除場所に向かう場合のみ)

現状として、早めに行動しても時間に余裕をもてない場合があります。例えば移動教室で忘れ物をしたときや、授業や朝の会・帰りの会が長引いた時などです。これらを解決する方法として、廊下の開通を望みます。廊下を開通することで時間に余裕をもたせ、10分休みを有効に使うことができ、2分前着席の徹底にもつながると考えたからです。…このことでした。

青嶺中学校に限らずほとんどの中学校では、生徒指導上の理由で他学年との接触を減らすため、校舎の構造上仕方ない場合を除き、通って良い区間を決める

ことが通例です。

青嶺中学校でも、1・2年生教室前の廊下は通らないように決まっていますが、今回、生徒会では少しでも生活しやすくするため、そして自分たちでルールを決めて問題点を無くすために学年ごとでメリット・デメリットを出し合い、必要と思われるルール決まりを話し合いました。

話し合いを重ね、会長と副会長が生徒を代表して要望書を持参し、校長と話し合う機会を複数回持ちました。生徒達からの提案内容は次の通りです。

- ◎「休み時間や登下校時、掃除に向かう場合のみ通行可能」
- ◎ルール決まり
 - ・他学年の教室をのぞかない
 - ・廊下で遊ばない
 - ・騒がない・走らない
 - ・他学年の教室学習室に入らない
 - ・必要以上に他学年に絡まない
 - ・昼休みは通行不可
- (時間に余裕があるから)
 - ・給食の時のお手洗いの際には通らない(準備の邪魔になるから)
 - ・掃除の後は通らない
 - ・帰りの放送の邪魔になるから)
 - ・お手洗いや移動教室、保健室以外で利用しない(別の用事がある時は先生に言う)
 - ・授業で必要なものの貸し借りをしない
- ・時間になるまで教室から出ない
- ・二週間に一回アンケートでの振り返りを行う(アンケート↓生徒会で話し合う↓生徒集会)

起こりうる問題点を予測し、細やかに対応を考えています。また「ルールを守れなかった場合」として「アンケート結果や目安箱への投稿でルール違反が判明したら、放送で呼びかけ、クラスで再度話し合いを行う。その結果を生徒会に提出し、場合によっては通行を禁止する。禁止後、再度アンケート(ルールを守って廊下を開通するか、ルールを破る人がいるので廊下を開通しなくてもよいか)を取り、通行を再開するか決める」となっています。その後、会議で「新しい決まり」が承認されました。先週の金曜日、合唱練習の後で生徒会長から1・2年生に伝達され、今週から運用が始まっています。

ルールや決まりについて、自分たちから「こうしたい方が暮らしやすい」と学級討議という正当な手続きを踏んで真剣に話し合い、生徒の代表である会長、副会長が学校に堂々と要求しました。その過程は自分たちの手で暮らしやすい学校を創り、守っていく記念すべき第一歩だと感じました。うまくいかない時もあるでしょうが、その時々で皆で対処法を考え直すみます。本校の学校目標のひとつは「自ら考え自ら行動する生徒」です。青嶺中学校を自分たちが暮らしやすく、大事に思える場所にしていくために、自ら考え、自ら行動し続け、今回学校を動かした「誇りと自信」を持ち続けてください。行動に移した皆さんを誇りに思います。そして更に素晴らしい学校にしていくなために一緒に頑張っていきたいと思います。